

Z会主催「英語指導研究会」@熊本会場 実施レポート

開催日時	2012年10月7日(日) 12:00-16:30
会場	チサンホテル熊本 会議室

▼当日のプログラム

12:10~13:30 講演①: 立命館慶祥中学校・高等学校教諭 今井 康人 先生

14:10~15:10 講演②: 島根県立松江北高等学校教諭 八幡 成人 先生

15:50~16:20 Z会からの報告: Z会 編集担当 向後 祥子

※参加者人数: 48名

講演① 今井 康人 先生

テーマ: 「文法・語法から広がる4技能統合型学習+1」

○導入

- ・新指導要領導入による、オールイングリッシュ授業への流れ
重視されるのは「反論」「要約」などに見られるように「情報を読み取って考えをまとめる」力であり、訳読式の授業よりも、英文を読み取る力を高める授業が必要とされている。
- 一方で、「なんとなく内容を読み取らせる」授業だと、内容を正確につかめていない
- ・正確に英語を読み取る力を養うために必要な力=「文法・語法力」

○最近の授業の傾向

- ・プレゼンなどにも使えるよう、「発音」「音読」「暗唱」などが非常に重要
- ・言語習得の「方法」を指導する⇒自学自習ができるようになる
- ・進学校の生徒は短期記憶に優れているが、定着には時間がかかる⇒「反復」の必要性

○これから求められる英語授業

- 「言語運用能力のトレーニング」と、「教養・感動を味わう読み方」をバランスよく行うこと
- ・トレーニングの側面: 速読, 多読
→「辞書なし」「わからなかったら飛ばす」「面白くなかったら別のものに変える」
→教員は生徒の興味を引き出す「カウンセリング」や、語数・内容などの事前準備が必須
 - ・教養, 感動の側面
→感動的な題材を選び、与えることも重要

○授業で何をするか

- ・アクティビティ中心の授業で「英語を自動化」すること。そのために生徒に「思考」させることが大切。
- ・理解→タスク(スパイラルに理解を深める)→アウトプットの流れ。4技能+1(=思考力)を養う。
- ・予習で内容理解を徹底するため、単語の意味・用法はあらかじめ与える

○模擬授業 ※別資料(『ZESTAR 総合英語』pp.542~559部分)を使用

- ・語彙の確認: ペアで日⇔英を言い合う, スペルを答える など, 1つの素材をもとに4~5回タスクを行う
→教員は机間巡視をすることで, 共通のミスや発音の注意点などを把握でき, あとで補足説明が可能
- ・例文の確認: 黒板に書いた例文を1語ずつ消していく
→「理解」→「言える」→「書ける」という内在化(自動化)の動きができる
- ・Read Aloud でアウトプットにつなげる工夫
→音声を聞いたあと, 1分間で Summary を話すトレーニング=生徒は「英語を話す喜び」を感じることができる。
→1分間 Summary であれば, 授業に盛り込む余地は十分にあるだろう
→英文の内容について, 問いを作らせることや意見を問うことで, 考える力を養うことが可能。
→Opinion を問う要素=interaction や discussion の側面が大きい。授業の中にも素地を盛り込みたい
→従来の英語教育では, 「話す」をしてこなかった。これからは, 「積極性, 発信」の英語教育が必要である。

○難関大入試への対応

- ・どの大学も問題は異なるが、共通するのは思考力を問うている点と、速い情報処理能力が必要とされる点
- ・個別のエッセイライティング指導＝志望別に教員を分けて指導することで効率化できる

○語彙指導のヒント

- ・必要なのは「刺激と繰り返し」→語源やイラストなど、多方面からアプローチする姿勢が(教師に)必要。

○教師に必要なこと

- ・生徒の **role model** であること、英語が好きでい続けること
- ・正しい行動は成果につながる。「いい授業をし続ける」ことが大切。

【講演② 八幡成人先生の講演レポートは次のページに続きます】

講演② 八幡 成人 先生

テーマ：「高1・高2における文法定着と、語彙力アップの実践例」

○導入

- ・英語ができるとは＝窓とドアのある部屋にいるような状態
→外の世界を見ることができると外に歩みだすこともできる

○伸びる生徒とは

- ・英語を使うことが目的、「英語を使って〇〇がしたい」というのが明確な生徒→社会人になっても英語を使えるための基礎基本を大切にしている。
- ・1年生のときに学習する文法がもっとも大切。

○基礎基本の文法事項

- ・中学の先生と共同で、基礎単語や表現などをリスト化して高1生に提示→長期記憶に落とし込む
- ・文法は語順を最も重視し、忠実に作文させる
※いい先生とは＝生徒の心に火をつけられる先生
入り口と出口を明確に認識できており、その間の道筋をたくさん知っていること

○素材が面白いことの重要性

- ・あとで「使える」英語にするためには、細かなニュアンスの違いなども理解しておきたい
→『ZESTAR 総合英語』の Imai's Room や Peter's Room は有効。
- ・『英単語 WIZ』：テーマが面白く、反復しやすいつくりになっているところがよい。

○単語学習について、「反復」の重要性

- ・単語は「語源」に落とし込んだ（語源プリントを作成）→上位層では医学用語の理解などに役立っている
- ・『音読英単語』を使用→何周も繰り返し（高3秋で7回目）、間違えやすい単語をリスト化してテストを行う＝生徒の間違いやすいポイントを知っていることは教師の強み
- ・「やりっぱなし」の模試を活用→難易度やつまづきポイントをまとめ試験翌日に配布＝生徒に復習の仕方を伝えている（あとで手がかからなくなる）
※採点ミスを探させるつもりで復習させる

○チーム八ちゃんについて

- ・全国の先生で資料を集めてより高めあっていきたい
- ・書き溜めた資料はHPからもダウンロード可。

○まとめ

- ・大切なのは「繰り返し」
- ・生徒は決して裏切らない。教師は行き当たりばったりでなく、道筋を示してあげることが大切。

Z会からの報告(Z会 編集担当より)

『英文法・語法問題 GRAMMARMASTER』改訂版, 『Z会テストエディター』のリリースのお知らせ

◆「GRAMMARMASTER」改訂内容のご案内

- ・改訂ポイント、周辺教材のラインナップ、別冊付録、120%活用法などのご紹介

◆「テストエディター」の操作デモ

- ・全体的な機能のご紹介(プレビューが使いやすくなったこと／作成モードが2つから選べること など)
- ・「GRAMMARMASTER」でどんなテストが作れるかのデモ
(オリジナル問題が増えたこと／出題条件が細かく設定できるようになったこと など)